

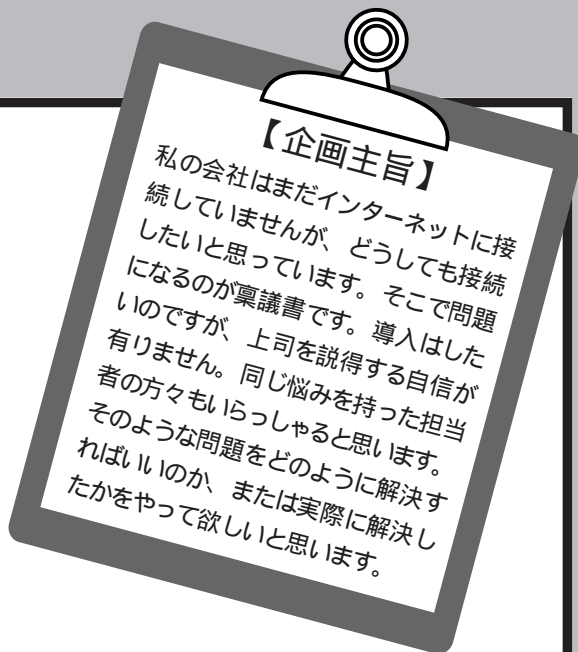


拝啓 社長殿

IP 接続 かならず通る 稟議書の書き方

今月の企画者

兵庫県 坂口真一さん



現状では、64Kbpsの専用線でプロバイダーと接続しようとすると、月に20万から50万円くらいのコストが発生します。確かに、これを会社に納得してもらうのは、坂口さんの会社だけではなく容易ではないでしょう。

しかし、投資対効果が合うかどうかは組織ごとに状況が異なる問題ですから、一概に言うことはできないでしょう。そこで、すでに稟議を通した方、またプロバイダーの方などにうまい言い方をアドバイスしていただきました。

これがIP接続の殺し文句だ！

その①「別のコストが削減できますよ」

(某外資系メーカー広報担当者)

国際電話、テレックス、海外メールなど、現状でも海外とのやりとりには多大なコストがかかっています。また、広報、宣伝用の資料作成や配布も費用がかさみます。これが削減できることを強調しました。

その②「同業他社がやり始めましたよ」

(某プロバイダーの営業マン)

いろいろ能書きを言うよりも、競争相手がすでに接続した(またはしようとしている)ことを利用すると効果があるようです。

その③「社長の顔を世界じゅうにアピールできますよ」

(業界通)

最近の企業のWWWサーバーを見ると、よく社長の顔が出ています。いかに厳しい社長さんでも、自分の顔が世界の人達

にアピールできると言えば、悪い気はしないのではないのでしょうか。

その④「名刺に電子メールアドレスのない会社は生き残れないそうですよ」

(某新聞記者)

情報系の企業は、電話だってFAXだって一番に導入したはず。当然、インターネットメールだって必要です。この点を説得するのがベター。

その⑤「うちも新しいことをやりましょうよ」

(編集部より)

バブル崩壊後、ビジネスの構造が変化してきています。これからの企業は、既存のビジネスにしがみついていたのではダメでしょう。ここはひとつ、いま一番ホットなテーマであるインターネットに参加してみて、ビジネスチャンスを探ってみてはどうでしょう。



これからIP接続の提案をしようと思っている方へ

【石田教授からの暖かいメッセージ】

次ページに掲載したのは、日本インターネット協会会長の石田晴久教授(東京大学大型計算機センター)が、読者のためにインターネットに接続するメリットを説明された文書です。本気で提案しようとお考えの方は、次ページをコピーして稟議書の添付資料とすれば、きっと成功確率が高まることでしょう。がんばってください！

拝啓 社長殿

平成七年一月吉日
日本インターネット協会会長
東京大学大型計算機センター教授

石田晴久

インターネットの有用性について

貴社、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、93年8月のアメリカのフォーチュン誌によれば、
全産業の中で対前年の売上げが最も伸びている100社番付けの中で、
ルーターメーカー(ネットワークの交換装置)が1位と5位に並び、
15位にはX端末のメーカーがランクされています。

さらに、24位には、ATMスイッチ(超高速LAN)のベンチャー企業が顔を出しています。
これは米政府の情報スーパーハイウェイ計画にあおられているせいもあるでしょうが、ネットワーク、
特にインターネットが米国で急速に普及していることによるものです。
そうしたグランドデザインのない我が国では、米国に比べて出遅れてはいますが、これからは日本でも
インターネットの可能性が非常に大きいのは明かです。
次に示したのは、インターネットに接続した場合のメリットの一端です。

1. 全世界約3000万人の人々と電子メール交換できる。

電話より、安く、早く、簡単に連絡がつけられます。最近では、文字だけでなく、ビデオなどのマルチメディア情報も交換できるようになってきましたから、場合によっては、出張の回数を減らすこともできるでしょう。特に、海外に関連会社や取引先がある場合は、非常に便利です。

2. 膨大な情報に簡単にアクセスできる。

インターネットの中には、とても数えきれないほどの情報が蓄えられています。その中には、最先端の技術情報から生活に密着したものまでありとあらゆるものがあります。うまく使えば新しい技術や、ビジネスチャンスを発掘できるでしょう。

3. 世界じゅうに情報発信できる。

WWWサーバーというハイパーテキスト型のデータベースを使えば、マルチメディアの情報を世界に向けて発信できます。これには、資格や許可は必要ありません。つまり、誰でもオンラインのPRができ、オンラインの出版ができることを意味しています。最近では、このシステムを利用して、求人案内や製品の直販をやり始める企業がでてきました。

このように、インターネットに接続することは、
これまでのビジネススタイルでは考えられなかったような可能性を秘めています。
もし、部下の方から「インターネットに接続したい」などの提案を受けられたら、
一度、真剣に検討してあげてほしいと思います。

敬 具



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp